

第3回 国連防災世界会議について

1. 国連防災世界会議とは？

国連防災世界会議とは、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議です。これまで、第1回(1994年)は関東大震災の被災地である横浜で、第2回(2005年)は阪神淡路大震災の被災地である神戸と、両会議とも日本で開催されてきました。そして第3回が、来る3月14日(土)～18日(水)にかけて、東日本大震災の被災地である仙台市で開催されます。

2. 国連防災世界会議の経緯

1990年に国際防災の10年(IDNDR)が、自然災害による人的損失、第物的損害、社会的・経済的混乱について、国際協調行動を通じて軽減することを目的としてスタートしました。その中間年である1994年に、最初の国連防災世界会議が開催されました。ここでは、「より安全な世界に向けての横浜戦略」とアクションプランが採択されました。

2000年に、国連国際防災戦略(ISDR)がスタートし、現代社会における災害対応力の強いコミュニティと災害後の対応中心から災害の予防・管理への進化が目標とされました。

そして2005年に第2回国連防災世界会議が開催されました。ここでは今後10年の国際社会における防災活動の指針となる「兵庫行動枠組2005-2015 (Hyogo Framework for Action)」が採択されました。

兵庫行動枠組 (HFA)	
3つの戦略目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な開発の取り組みに減災の観点をより効果的に取り入れる 2. 全てのレベル、特にコミュニティレベルでの防災体制を整備し能力を向上する 3. 緊急対応や復旧・復興段階においてリスク軽減の手法を体系的に取り入れる
5つの行動計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災を優先課題に位置づけ法制度・枠組みを確立する 2. 災害リスクを特定・評価・監視し、早期警戒を強化する 3. 知識・技術を活かし、教育を行い人々の防災文化を構築する。 4. 潜在的なリスク要因を軽減する 5. 効果的な応急対応が取れるよう事前準備を強化する

そして今回、第3回国連防災世界会議においては、HFAの後継となる防災・減災に関する国際的な枠組み(ポストHFA)に関して議論することになっています。



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

図：第3回国連防災世界会議公式ロゴマーク
(災害に対して強靱(レジリエント)な社会に向けて、人々が共に手を携えて行動を起こすイメージを表しています)

3. 国連防災世界会議の構成

国連防災世界会議は、本体会議とパブリック・フォーラムから構成されています。

このうち本体会議とは、世界各国の代表が国際的な防災戦略を議論する、国連主催の会議です。この会議には、国連に加盟する世界193ヶ国から、各国首脳・閣僚を含む政府代表団、国際機関、認定NGOなど5,000人以上が参加します。残念ながら、私たち一般人は、この本体会議には参加することはできません。

一方、この本体会議と並行して開催されるのがパブリック・フォーラムで、政府機関、地方自治体、NPO、NGO、大学、地域団体など、国内外の多様な主体による防災や減災、復興に関する取り組みを一般公開により広く発信するものです。シンポジウム・セミナーだけで400以上の企画が予定されており、また会場も仙台を中心としつつも青森県から福島県まで非常に幅広い場所で開催されることになっています。このような防災・減災・被災地の復興に関する日本や世界の最新の知見・研究を学ぶ企画や、復興の取り組みを知り被災地の未来を考える企画のみならず、災害時に活躍する車の展示や自衛隊の炊き出し、世界の料理を食べながら国際交流ができるイベントなど、盛りだくさんの企画が用意されています。

ぜひ、皆様のお越しをお待ちいたしております。

注：本稿は国連防災世界会議仙台開催実行委員会のホームページを参考に作成いたしました。

(文責：東北大学 姥浦道生)